

エコスクール・みなみやわた

《きほんほうしん》

わたしたちは、
たいせつな地球ちきゅうをまもるため、
うつくしいふるさと南八幡みなみやわたをまもるために
みんなでつぎのことをおこない、
かんきょうをすこしずつよくしていきます。

- 1 電気でんきや石油せきゆをせつやくします。
- 2 水みずをたいせつにつかいます。
- 3 ゴミをへらし、
リサイクルをすすめます。
- 4 かんきょうかんきょうについて
すすんで学びます。
- 5 さぬ山やまの自然しぜんをまもります。



南八幡小 **かんきょうを まもるかつどうの もくひょう**

☆☆☆ひとりひとりが しゅやくです☆☆☆

こうもく	もくひょう	すうちもくひょう	とりくみ
電気	きょ年とおなじくらい	今年1年で 130000 キロワット時以下	<ul style="list-style-type: none"> ○使っていない教室やトイレの明かりを消す。 ○使っていない電気器具のコンセントはぬく。 ○特別教室のエアコンは、状況に合わせて使う。
石油	すすんでへらします	今年1年で 1000 リットル以下	<ul style="list-style-type: none"> ○部屋の温度を暑くしすぎない。 ○運動や健康な生活を心がけ、寒さに負けないじょうぶな心と体をつくる。
水	きょ年とおなじくらい	今年1年で 30000 立方メートル以下	<ul style="list-style-type: none"> ○水を大切に使うように心がける。 ○水道を流しっぱなしにしない。コップやバケツを上手に使う。 ○じゃぐちをしっかりとめる。
ゴミ	すすんでへらします	もえるゴミは 1週間 10ふくろ 以下	<ul style="list-style-type: none"> ○ウラが白い紙はウラも使う。 ○リサイクルできる紙やダンボール、きれいなビニールを分けて集める。 ○校庭の落ち葉を、ひりょうなどに利用する。 ○ペットボトルキャップを集める。
学習 自然保護 環境美化 実践活動	すすんで学習し、せっきよくてきに活動します。	各学年で年に 10時間 程度	<ul style="list-style-type: none"> ○環境について、教科の授業の中や、総合的な学習の時間にすすんで学習する。 ○5月 上野三碑・さぬ山学習 ○5・6月 オオムラサキの観察 ○7・8月 環境新聞づくり ○9・10月 環境新聞発表会 ○11月 環境美化実践日 ○12月 春の花壇の準備 ○1月 給食感謝週間 ○3月 年度末大そうじ <p>◆環境・理科・栽培委員会の活動</p>

令和4年度 南八幡小の環境教育と実践活動
「たかさき学校ISO活動報告」

高崎市立南八幡小学校

1. 取組の概要

(ア)日常生活の取組

電気、灯油、水、ゴミの各項目について、身近なことですぐに始められることから実践するよう年度当初からの学級の活動に位置づけている。

(イ)学習活動の位置づけ

環境教育に関する学習内容を各教科の年間指導計画の中に位置づけ、計画的に授業を行った。

(ウ)自然保護・環境美化実践活動

以下の項目において自然保護や環境美化活動の実践を行っている。

学年花壇の種まき（6月）、環境新聞づくり（8月）、環境美化実践日（11月）、花壇・パンジーの植え替え（11月）、オオムラサキの飼育（12月～7月）、ビオトープの維持管理（年間）

2. 令和4年度の活動内容

(ア)日常生活（各学級）の取組

- ごみの分別をし、減量に努める。
- 使っていない部屋の明かりを消す。
- 使っていない機器のコンセントは抜く。
- 掃除や水やりなどのとき、こまめに水を止める。
- 給食後の歯みがきには、コップを使う。
- 冷・暖房は控えめにする。
- 環境委員会を中心として、1年を通じペットボトルキャップを回収し、燃えるごみの減量に取り組む。



ペットボトルキャップの回収

(イ)学習活動の位置付け

環境教育に関する学習内容は、各学年の各教科の年間指導計画の中に年間10時間程度位置づけ、計画的に活動している。

1・2年生では、アサガオやサツマイモなどの草花や野菜を育て、植物の成長に必要な環境につ



サツマイモの収穫



オオムラサキの観察

いて、体験的に学習している。3年生は、オオムラサキ等の昆虫の観察を通して、昆虫の成育に必要な環境について考える学習をしている。4年生はゴミとりサイクルについて、6年生は地球規模での環境問題について学習している。

(ウ) 自然保護・環境美化活動



花の植え替え（緑化）



オオムラサキの
幼虫採集



ビオトープの維持管理



環境新聞



環境美化実践日



かぶとむしマンション
(落ち葉利用)

3年生の総合的な学習の時間ではオオムラサキをテーマに学習している。飼育や観察を行うだけでなく、地域の里山(観音山丘陵の一部)でオオムラサキの幼虫の採集を行うことを通して、地域の環境を守ることの大切さを実感できるような学習を展開している。

親子で作る『環境新聞』は夏休みに希望する児童を募集して取り組んでいる。今年度も各学年から応募があり、代表児童がそれぞれの視点で環境問題への意識をもち、資料を調べたり、自分たちでできることを実践したりしてその取組みを新聞としてまとめている。代表児童の作品を廊下に掲示することで、全校児童が取組に関心をもつことができている。

取組の見直し及び今後の活動

○ 日常生活での取組状況について

本年度も昨年度同様、感染症対策の観点から、冷暖房中窓を開けて換気を行ってきたため、節電が難しかった。

ごみについては、衛生面等考慮しながら、極力分別し減量化を図ってきた。

オオムラサキの飼育や環境新聞の作成等は長年行われているが、今年度も継続して行うことができた。

○ 今後の活動について

今後も、オオムラサキの飼育や観察をはじめ、地域の自然を生かしながら、身近な環境を大切にする心を育くめるようにしたい。

児童自身が、日常の中で、身の回りの環境のことを意識して生活し、環境のことを考えた行動ができるよう、引き続き活動を行っていききたい。